

## 公 安

昭和26年自治体警察の廃止後，警察組織は一本化し，現在では県警察本部の下に32本署，502の派出所，駐在所に約2,000名の警察官を配している。県下の犯罪発生状況をみると，戦後の混とんとした社会情勢下に，各種の犯罪が全国的に増加し，本県もこれと軌を同じくして多くの犯罪が発生した。特に昭和24年には30,027件という本県最高の記録を示した。一方犯罪の検挙率は，昭和15年の97%，昭和18年の96%等と較べて低く，昭和23年には46%に過ぎなかつた。

しかしながら，経済の復興に伴い社会秩序も回復してきたので，犯罪の発生が減少すると共に検挙率も上昇して来た。

次に交通事故による災害は最近車が激増し，交通量の増大に伴い年々増加している。

昭和31年は2,840の事故があり，毎日，県内の何処かで7件の事故が発生していることになる。事故の原因は「追越不適當」が最も多く，また歩行者が不注意に車の直前直後を横断する際，多くの事故を発生している。

本県の火災発生は近年増加する傾向にあり，昭和31年には563件の火災があり，18,052坪の建物を焼失し，16,700万円の物財が灰になつている。

このような火災の原因は「かまど」以下「石油こんろ」等のちよつとした不注意や不始末によるものが多く，原因不明のものも少くない。